

オストワルド塾成（おすとわるとじゅくせい） Ostwald ripening

過飽和の溶液から析出した微粒子の大きさに差がある時、時間の経過につれて、小粒子が消滅して大粒子がしだいに大きくなる現象をいう。この現象は粒子を成す物質の蒸発が局率半径に依存することに基づく。即ち、小粒子の蒸気圧は大粒子より高いので、次第に蒸発して消滅し大粒子側へ凝縮する。この現象は O/W 型エマルション系においても起こり、水相を通して小滴から大滴へ油が拡散するとされている。

（古澤）

(C) 2004 筑波微粒子・界面・環境研究会, All rights reserved